

東アジア文化交流論B 高倉 洋彰	履修年次	クラス	単位	学期
	2-4		2	後期
備考：				

【講義の概要】

授業の到達目標及びテーマ：弥生時代は日本列島に住む人びとが国際的な交流を開始した時代であり、縄文時代社会を急速に変革させた時代であった。中国ですでに約5000年前に始まっていた水稲耕作技術を修得するとたちまちに中国の水準に到達するなど、明治維新後の文明開化をほうふつとさせるものがある。蓄積された考古資料の分析を通じて、新たな知識を貪欲に求めた弥生人の姿を追うことによって、学問をする魅力と、交流史の考察能力を育成する。

テーマ 交流する弥生人

授業の概要：朝鮮や中国と交流するようになった弥生時代は、社会や生活のすべてが縄文時代とは一新された。コメを耕作し食べる生活がその最たるものだが、服装や祭りにいたるまでに変化はおよび、そのほとんどに外的な影響を見出すことができる。その成果が、後漢王朝が倭（日本）に対し与えた「漢委奴国王」金印にみられる、文書外交を原則とする中国を中心とする東アジア世界（金印国家群）に参加できることになるまでの成長であった。

以上のことを解明するために必要な考古資料の扱い方を解説し、学問の面白さや楽しみを伝えるとともに、考古学の方法の基礎を理解させる。

準備学習等についての具体的な指示：適宜配布する関連資料を理解できるまで読み込んでおくこと。

授業計画：

- 第1回 五段階の国際化
- 第2回 国際交流の主体と客体
- 第3回 水稲耕作技術体系の伝播
- 第4回 ムラの変貌
- 第5回 男の仕事と女の仕事
- 第6回 男性は貫頭衣、女性は袈裟衣
- 第7回 格差をあらわすアクセサリー
- 第8回 食生活をうかがわせる資史料
- 第9回 漢代画像資料にみる調理と食の風景
- 第10回 歌舞飲酒する人びと
- 第11回 祭りの光景
- 第12回 呪術の世界
- 第13回 弥生人のメッセージ
- 第14回 大海を渡る交流
- 第15回 東奔西走する人びと

【テキスト】

高倉洋彰『交流する弥生人』吉川弘文館、2001年

【参考書等】

高倉洋彰『金印国家群の時代』青木書店

【成績評価の方法】

学期末に実施する筆記試験（70％）、授業への積極的な参加（30％）を基準に総合的に判断し、成績を評価する。

【履修上の注意】

歴史に関する基本的な知識の修得の場であるから、欠席をしないこと。欠席には厳しく対応する。